駐日ポーランド共和国大使館

ポーランド広報文化センター
INSTYTUT POLSKI TOKIO

POLAND+JAPAN 100

2020 年 8 月 6 日

ニュースリリース

# 「絆の架け橋――夏休み in ポーランド」

日本赤十字社などの支援を受けたポーランド人孤児の一団が敦賀港に到着してから 100 回目の記念日を迎えたことは、この忘れがたい善意に対する、ポーランド側のさまざまな感謝の証の一つを思い起こす格好の機会です。それは、2011 年 7 月 24 日～8 月 10 日に、ポーランド伝統空手道協会の発案で実現した、「絆の架け橋 - 夏休み in ポーランド」プロジェクトです。このプロジェクトによって、東日本大震災で最も甚大な被害を受けた地域（岩手県と宮城県）の中学生と高校生 30 名と教員 3 名が、ポーランドで 2 週間余りの夏休みをすごしました。

ポーランド滞在中、子供たちは、〔道場・スタラヴィェシ〕欧州武道センターに宿泊し、スポーツとリクレーションの授業、文化ワークショップ、ポーランド語の授業、ポーランドの子どもたちとの交流、近郊への小旅行（徒歩、自転車、カヤック）など、終日を、教育的な配慮の下ですごしました。子供たちは、クラクフ（〔マンガ〕センターでは、アンジェイ・ワイダ監督と面談しました）、ヴィェリチカ、ワルシャワ（大統領宮殿では、ポーランド共和国大統領夫人に歓迎されました）を訪れました。

ラドスワフ・シコルスキ ポーランド共和国外務大臣が、プロジェクトの名誉総裁に就任しました。レフ・ワレサ大統領が委員長を務める、名誉委員会も結成されました。委員会事務局長を務めたのは、イェジ・ポミャノフスキ ポーランド合気道連盟会長・元駐日ポーランド共和国大使です。

ポーランド外務省とスポーツ

観光省が、財政的支援を行いました。ポーランドへの渡航の計画と準備を助けたのは、駐日ポーランド共和国大使館と日本国外務省です。プロジェクトは、ポーランド合気道連盟とポーランド県庁からも多大の援助を得ました。駐ポーランド日本大使館も、本事業を後援しました。

渡航・滞在プログラムは、民間企業の支援によるものでした――（株）ポーランド造幣局、（株）ポルコムテル、（有）HBO ポーランド、（有）HMI、いすゞ自動車ポーランド、（株）ヴェデル、ルフトハンザ、ポーランド航空 LOT、播磨高校（姫路）、（株）東芝、アニメックス、ホテル・ニューオータニ（東京）、GM トラベル、トラノコ、（株）中国電力、パナソニックその他多数。

1920 年代に日本赤十字社によってポーランドのシベリア孤児数百名が救済されたこと、1995 年の阪神淡路大震災で被災した日本の子供たちがポーランドに滞在したことに続く、「絆の架け橋」プロジェクトは、ポーランド・日本間の人的・社会的関係を構築・強化する、新しい無償の提案でした。これは、多くのさまざまな方法で、2011 年 3 月の震災の被災者との連帯を証し立ててきたポーランド社会が実行した、一連の活動の一つとして歴史に刻まれています。本プロジェクトにおいては、駐日ポーランド共和国大使館が日本における主要な調整役になりましたが、その実施は、日本のマスコミにも幅広い反響を引き起こし、日本のある新聞記者は、この出来事を次のように報道しました――「ポーランドの人たちは昔の恩義を忘れていなかった。阪神大震災でも日本の子供たちを招いた。今度は、われわれがポーランドの支援を語り継がなくてはならない」

*文責：駐日ポーランド共和国大使館*


***駐日ポーランド共和国大使館***

*https://www.gov.pl/web/japonia/ambasada*

*tokio.amb.sekretariat@msz.gov.pl*

*Twitter: @PLinTokyo*

*Facebook: https://www.facebook.com/Ambasada-RP-w-Tokio*

***ポーランド広報文化センター***

*https://instytutpolski.pl/tokyo/*

*tokio@instytutpolski.org*

*Twitter: @PLInst_Tokyo*

*Facebook: https://www.facebook.com/InstytutPolskiTokio/*